

LMO-2300SU2 V03

Ultra SCSI & USB 2.0 MO UNIT

MOユニット・ ユーザーズマニュアル

LMO-2300SU2



Logitec

目次

| | |
|-----------------------|----|
| 取扱い上のご注意 | 1 |
| 付属品の確認 | 5 |
| ごあいさつ | 6 |
| ご注意 | 6 |
| 共通編 | 7 |
| 共通編: 1 製品の特徴 | 7 |
| 共通編: 2 各部の名称と機能 | 8 |
| 共通編: 3 設置方向について | 10 |
| 共通編: 4 メディアに関して | 11 |
| 共通編: 5 ハードウェア仕様 | 16 |
| SCSI 編 | 17 |
| USB 編 | 43 |

本書の使い方

本製品はSCSIインターフェース、USBインターフェースのどちらにも接続することができます。そのため、本マニュアルはSCSI編とUSB編に分かれています。最初に共通編をお読みになった後は、SCSI、もしくはUSBのうち、使用するインターフェースに対応した方をお読みください。

取扱い上のご注意

本製品を正しく安全に使用するために

- ・本書では製品を正しく安全に使用するための重要な注意事項を説明しています。必ずご使用前にこの注意事項を読み、記載事項にしたがって正しくご使用ください。
- ・本書は読み終わった後も、必ずいつでも見られる場所に保管しておいてください。

表示について

- ・この「取扱い上のご注意」では以下のような表示(マークなど)を使用して、注意事項を説明しています。内容をよく理解してから、本文をお読みください。



警告

この表示を無視して取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う危険性がある項目です。



注意

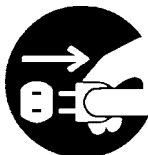
この表示を無視して取扱いを誤った場合、使用者が障害を負う危険性、もしくは物的損害を負う危険性がある項目です。



三角のマークは何かには注意しなければならないことを意味します。三角の中には注意する項目が絵などで表示されます。例えば、左図のマークは感電に注意しなければならないことを意味します。



丸に斜線のマークは何かを禁止することを意味します。丸の中には禁止する項目が絵などで表示されます。例えば、左図のマークは分解を禁止することを意味します。

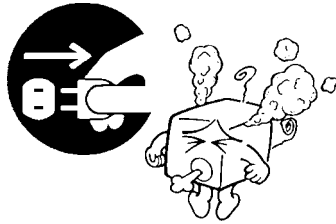


塗りつぶしの丸のマークは何かの行為を行わなければならないことを意味します。丸の中には行わなければならない行為が絵などで表示されます。例えば、左図のマークは電源コードをコンセントから抜かななければならないことを意味します。

警告

万一、異常が発生したとき。

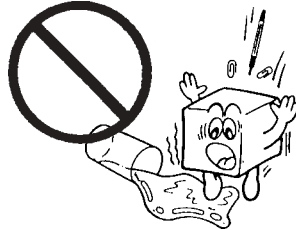
本体から異臭や煙が出た時は、ただちにACアダプタをコンセントから抜いて販売店にご相談ください。



異物を入れないでください。

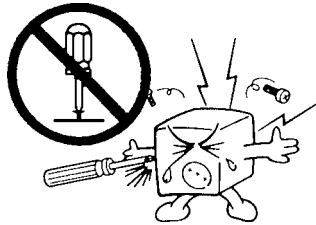
本体内部に金属類を差し込まないでください。また、水などの液体が入らないように注意してください。故障、感電、火災の原因となります。

万一異物が入った場合は、ただちに電源を切り販売店にご相談ください。



分解しないでください。

ケースは絶対に分解しないでください。感電の危険があります。分解の必要が生じた場合は販売店にご相談ください。



正しい電源で

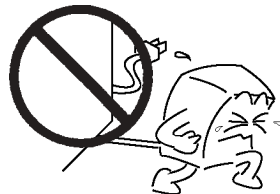
使用してください。

ACアダプタは必ず本製品付属のものを使用し、AC100Vのコンセントに接続してください。



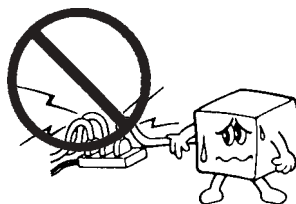
ACアダプタのコードを大切に。

ACアダプタのコードは破損しないように十分ご注意ください。コード部分を持って抜き差ししたり、コードの上にものを乗せると、被服が破れて感電/火災の原因となります。



⚠ 注意

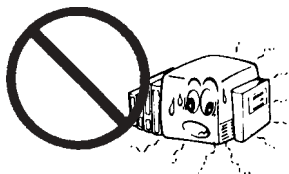
ACアダプタはなるべくコンセントに直接接続してください。タコ足配線や何本も延長したテーブルタップの使用は火災の原因となります。



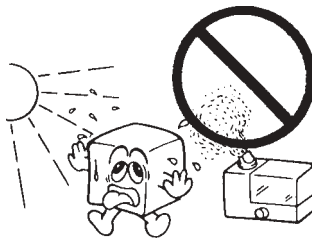
ACアダプタのコードは必ず伸ばした状態で使用してください。束ねた状態で使用すると、過熱による火災の原因となります。



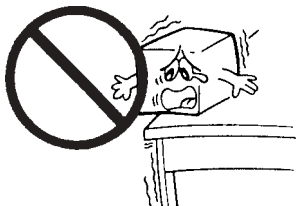
通風孔はふさがらないでください。過熱による火災、故障の原因となります。



高温・多湿の場所、長時間直射日光の当たる場所での使用・保管は避けてください。また、周辺の温度変化が激しいと内部結露によって誤動作する場合があります。

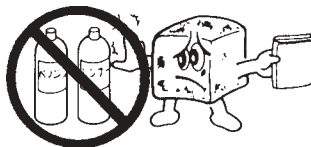


本体は精密な電子機器のため、衝撃や振動の加わる場所、または加わりやすい場所での使用 / 保管は避けてください。

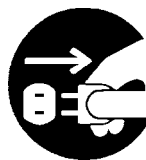


⚠ 注意

本体が汚れた場合は必ず電源を切ってから、柔らかい布に水または中性洗剤を含ませ軽くふいてください。（本体内に垂れ落ちるほど含ませないように気をつけてください。）揮発性の薬品（ベンジン・シンナーなど）を用いますと、変形・変色の原因になる事があります。



本製品を長期間使用しない場合は、ACアダプタをコンセントから抜いておいてください。





ご注意

当社 DOS/V 対応製品は、OADG(*1)加盟メーカーの DOS/V パソコンで一般に市販されている製品を想定して設計されています。しかし、接続確認については全ての機種を確認することは不可能ですので、代表的な製品のみで確認を行っております。そのため、本製品を使用できない、または本製品の機能を使用できないパソコンが一部に存在する可能性があることは、ご了解いただきますようお願いいたします。特に自作パソコンやショップ組立てパソコンでは、コストの問題やパフォーマンスの追求のため、想定外の部品が使用されている場合があります。このような場合、相性問題などが発生する可能性が高くなることをご承知おきください。

(*1)OADG は「PC オープンアーキテクチャー推進協議会」の略です。

(OADG URL <http://www.oadg.or.jp/>)

付属品の確認

| | |
|--|-------|
| MO ユニット | 1 台 |
| AC アダプタ | 1 個 |
| SCSI ケーブル (D-sub ハーフピッチ 50 ピン) | 1 本 |
| USB ケーブル (USB2.0 High Speed 対応) | 1 本 |
| 縦置き用スタンド | 1 セット |
| 横置き用ゴム足 | 1 シート |
| ソフトウェア (ハイブリット CD-ROM) 「Logitech Ware (B'sCrew Lite を含む)」 | 1 枚 |
| イジェクトツール | 1 個 |
| MO ユニット・ユーザーズマニュアル | 本書 |
| 保証書 / ユーザー登録カード | 1 枚 |
| 登録カード (B'sCrew 用) | 1 枚 |

本製品は精密電子機器です。輸送時には、必ず付属の梱包材をご使用ください。

* MS[®]、Windows[®]は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国での登録商標です。
Macintosh、Mac OSは米国アップルコンピュータ社の登録商標です。本書に記載されているパソコンの機種名等は各社の商標または登録商標です。

ごあいさつ

この度は弊社製品をお買い上げいただきまして、誠に有り難うございました。本書は製品に関する設定 / 接続方法、機能 / 仕様等についてのご説明をいたしますので、ご使用前に必ずご一読いただきますようお願いいたします。

弊社製品によって、お客様のパソコン環境がより便利なものとなりますよう心からお祈りいたします。

ご注意

本書の一部または全部を弊社に無断で転載することは禁止されております。

本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審の点がございましたら、弊社テクニカルサポートまでご連絡くださいますようお願いいたします。

本製品および本書を運用した結果による損失、利益の逸失の請求等につきましては、一 項に関わらず弊社ではいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

本書に記載されている機種名、ソフトウェアのバージョンなどは、本書を作成した時点で確認されている情報です。本書作成後の最新情報については、弊社テクニカルサポートまでお問い合わせください。

本製品の仕様、デザイン及びマニュアルの内容については、製品改良などのために予告なく変更する場合があります。

本製品を使用して保存したデータが、ハードウェアの故障、誤動作、その他どのような理由によって破壊された場合でも、弊社での保証はいたしかねます。万一に備えて、重要なデータはあらかじめバックアップするようにお願いいたします。

弊社は、本製品の仕様がお客様の特定の目的に適合することを保証するものではありません。

本製品は、人命に関わる設備や機器、および高い信頼性や安全性を必要とする設備や機器（医療関係、航空宇宙関係、輸送関係、原子力関係等）への組み込み等は考慮されていません。これらの設備や機器で本製品を使用したことにより人身事故や財産損害等が発生しても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。

本製品は日本国内仕様ですので、本製品を日本国外で使用された場合、弊社ではいかなる責任も負いかねます。また、弊社では海外での（海外に対してを含む）サービスおよび技術サポートを行っておりません。

共通編 1 : 製品の特徴

本製品は Ultra SCSI & USB 2.0/1.1 インターフェースに対応した 2.3GB の大容量外付け型 MO ユニットです。

本製品の特徴

2.3GB の大容量

GIGAMO 1.3GB 規格で採用された MSR (磁気超解像) 方式に加えて、大容量記録を可能とするランド/グループ記録方式 (従来はランドのみに記録) を組み合わせることにより、3.5 型 MO では初めて 2.3GB の大容量を実現しています。

データ転送速度の高速化

ディスク回転数を上げることにより、GIGAMO メディア使用時におけるデータ転送の高速化を可能にし、2.3GB メディア使用時には「最大 8.38MB/s(ディスク装置内)」という高速データ転送を実現しています。また、1.3GB メディア使用時には、ディスク内周部でのデータ転送速度の低下を防ぐために、ピックアップの位置によって「3637/4138/4801rpm」の 3 段階にディスク回転数を切り替える ZCLV モードを搭載しています。これらの高速化技術により、高画質 MPEG2 データ (8Mbps) を、直接 GIGAMO メディアへ記録する様な用途にも対応することができます。

Ultra SCSI & USB 2.0 /1.1 に対応

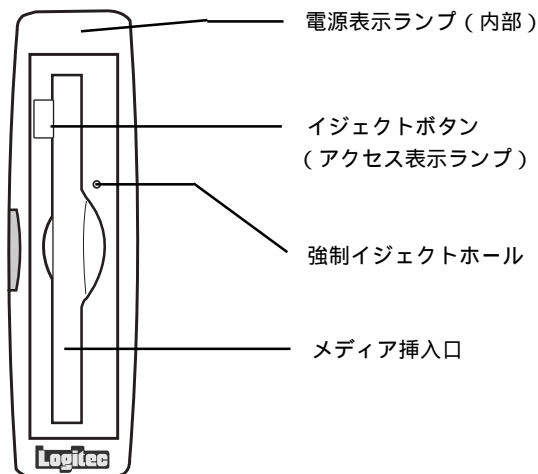
高速で従来資産の活用の点でも優れた「Ultra SCSI」、高速で簡単接続を実現する「USB 2.0」の 2 種類のインターフェースを装備しています。480Mbps の高速データ転送が可能な USB 2.0 の High-Speed に対応し、従来の USB 1.1 対応の USB ポートに接続することも可能です。もちろん、ホットプラグに対応します。

放熱性に優れた堅牢なボディ

押出し成形による筒型構造の採用により外装パネルを一体型で構成することが可能となり、ゆがみ、たわみや振動に強い堅牢なボディを実現。また、「内部に設置した板バネでドライブをアルミボディに密着させる独自構造により、放熱性能が向上し、安定したパフォーマンスを実現しています。

共通編 2 : 各部の名称と機能

本製品前面



電源表示ランプ (内部)

本製品の電源が ON になると内部のランプが点灯します。

イジェクトボタン (アクセス表示ランプ)

パソコン本体の OS が起動していないときに、MO メディアを取り出したい場合に使用します。また、このボタンにはアクセス表示ランプの機能もあり、本製品にセットされた MO にアクセスが行われると内部のランプが点灯します。

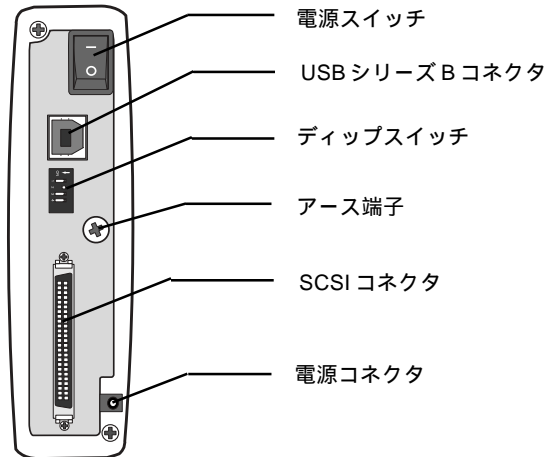
強制イジェクトホール

何かの原因でイジェクトボタンを押しても MO メディアが取り出せなくなったときに使用します。詳細については「共通編 4 : メディアに関して」をご参照ください。

メディア挿入口

MO メディアをセットする部分です。

本製品背面



電源スイッチ

本製品の電源を ON / OFF します。

USB シリーズ B コネクタ

本製品を USB 接続する場合に、パソコン本体の USB ポートと接続します。

ディップスイッチ

本製品の SCSI ID ナンバーを設定します。

アース端子

太くて短い導線などでパソコン本体のフレームグランド端子に接続すると、静電気などのノイズに強くなります。

SCSI コネクタ

付属のケーブルで SCSI インターフェースと接続します。

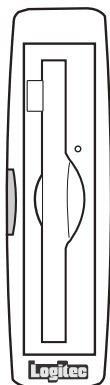
電源コネクタ

付属の AC アダプタのプラグを接続します。

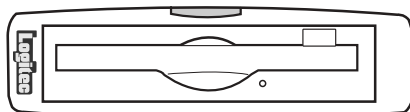
共通編 3 : 設置方向について

1

本製品は縦置き、横置きのどちらでも使用することができますが、それぞれ以下のような方向で設置してください。間違った方向で設置すると、トラブルの原因となる場合があります。

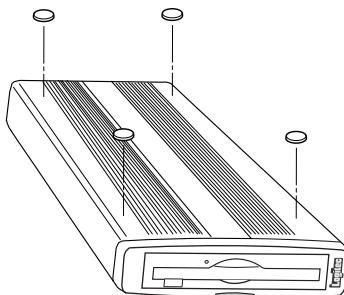
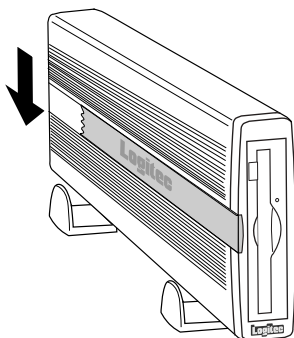


縦置きの場合



横置きの場合

縦置きの場合は、設置時、付属のスタンドをご使用ください。(下左図)
横置きの場合は、底面の4箇所に付属のゴム足を貼付してください。(下右図)



上図は底面を上にするため、設置方向と逆になっていますので、ご注意ください。

共通編 4 : メディアに関して

使用可能なメディアについて

本製品では、下表で の付いた MO メディアを使用することができません。

標準 = 標準タイプ OW = オーバーライトタイプ

| | | |
|-------|----|--|
| 128MB | 標準 | |
| | OW | |
| 230MB | 標準 | |
| | OW | |
| 540MB | 標準 | |
| | OW | |
| 640MB | 標準 | |
| | OW | |
| 1.3GB | 標準 | |
| | OW | |
| 2.3GB | 標準 | |
| | OW | |

= 使用可能 × = 使用不可

= このタイプは現在発売されていません。

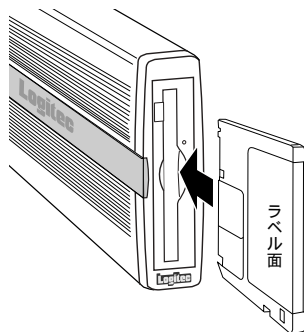
ご注意

他の MO ユニットとのデータ交換には、128MB の MO メディアは使用しないで下さい。(この用途は補償範囲外とさせていただきます。)

これは 128MB の MO ユニットには、初期のドライブを使用した製品があり、レーザー光の強度が本製品と異なる可能性があるためです。データ交換には 230MB 以上の MO メディアをご使用ください。

メディアをセットするには

本製品に MO メディアをセットする場合は、右図の方向でメディア挿入口に挿入してください。



ご注意

本製品には MO メディア以外のメディアは挿入しないで下さい。フロッピーディスク等を無理に挿入すると機器を損傷します。

メディアを取り出すには

本製品にセットされた MO メディアを取り出す方法は使用する OS により異なります。そのため、IEEE 編、USB 編で各 OS 似関する部分をご参照ください。

ご注意

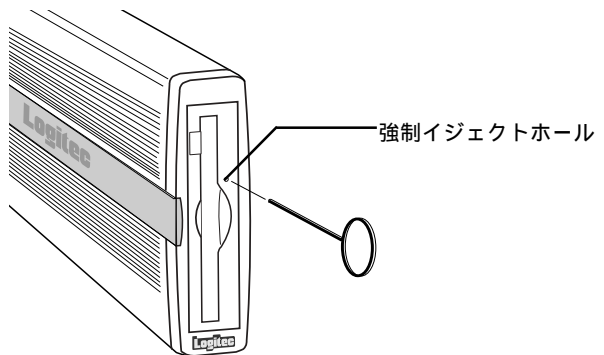
本製品前面のイジェクトボタンは OS が起動していないときに使用します。OS 稼動中は使用しないで下さい。

メディアが取り出せなくなった場合は

本製品にセットされたMOメディアが通常の手段で取り出せなくなった場合は、以下のことを試してください。

パソコン本体のシステムを終了して、本製品のみが電源ONになっている状態で、イジェクトボタンを押してください。

それでも取り出せない場合は、本製品の電源をOFFにして、付属のイジェクトツールを強制イジェクトホールに差込み、強く押してください。



メディアが1cmほど排出されますので、静かに引き出してください。

ご注意

本製品がONの状態では、強制イジェクトは行わないでください。

メディアのクリーニングについて

MO メディアは 1 ~ 3 ヶ月に 1 回程度、別売のメディアクリーニングキットを使用してクリーニングする必要があります。(使用環境 / 頻度によってクリーニングの時期は異なります。)クリーニングの方法については、クリーニングキットの取扱説明書をご参照ください。

本製品用のメディアクリーニングキットは、以下の型番で弊社より販売されております。

型番 : LMO-330-02

レンズ・ヘッドのクリーニングについて

空気中に浮遊するほこり、ちり、およびタバコの煙などが、本製品内部のレンズ・ヘッドに付着すると性能が低下することがあります。

本製品内部のレンズ・ヘッドは 3 ヶ月に 1 回程度、別売のレンズクリーニングキットを使用してクリーニングする必要があります。(使用環境 / 頻度によってクリーニングの時期は異なります。)クリーニングの方法については、クリーニングキットの使用法をご参照ください。

本製品用のレンズ・ヘッドクリーニングキットは、以下の型番で弊社より販売されております。

型番 : LMO-640-02



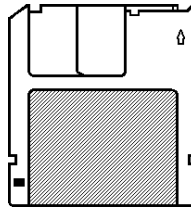
ご注意

- ・ レンズ・ヘッドクリーニングキットを使用する場合は、AC アダプタを接続し電源を供給する必要があります。
- ・ レンズ・ヘッドクリーニングキットは必ず弊社販売の「LMO-640-02」をご使用ください。市販のものを無理に使用すると、機器を損傷する場合があります。

MOメディアのラベルについて

MOメディアにラベルを貼付する場合は、必ず指定の位置に1枚だけ貼ってください。また、貼った後ではがれないようにMOメディアの両面をしっかりと押さえてください。(最近のラベルには再剥離可能なようにのりが弱いものもあります。そのようなラベルはできるだけ使用しないでください。)

不適切な位置に貼ったり、2枚貼りするとMOユニット内部でラベルがはがれて、MOメディアがイジェクトできなくなる恐れがあります。



裏面に回る部分をはがれやすいのでしっかりと押さえます。

斜線の部分からはみ出さないように貼ります。

共通編：5 ハードウェア仕様

1

| | | | |
|-------------------|-----|--|-------------|
| 機種名 | | LMO- 2300SU2 | |
| メディアタイプ | | 3.5型 MO メディア *1 | |
| ディスクあたりの記憶容量 | | 2.3GB / 1.3GB / 640MB 540MB / 230MB / 128MB | |
| 平均シークタイム | | 19 ms | |
| ディスク回転数 | | 640 ~ 128MB : 5455rpm 1.3 GB ZCLVモード: 3637 / 4138 / 4801 rpm 1.3GB ZCAVモード: 3637rpm 2.3 GB : 3637rpm | |
| インターフェース | | Ultra SCSI & USB 2.0 / 1.1 | |
| 最大同期転送速度 *2 | | SCSI : 20MB / s USB High - Speed : 480Mbps USB Full - Speed : 12Mbps | |
| キャッシュメモリ | | 8 MB | |
| 環境条件 *3 | 動作時 | 温度 | 10 ~ 35 |
| | | 相対湿度 | 20 % ~ 80 % |
| | 保管時 | 温度 | - 10 ~ 50 |
| | | 相対湿度 | 10 % ~ 85 % |
| 入力電圧 | | AC 100 V ± 10 % 50 / 60 Hz *4 | |
| 消費電力 (定格) | | 7 W *5 | |
| 外形寸法 幅 × 高さ × 奥行き | | 37 × 123 × 221 mm *6 | |
| 質量 | | 1.2 kg *7 | |

*1 対応メディアについては「共通編4 :
メディアに関して」を参照

*2 理論値

*3 ただし結露なきこと

*4 ACアダプタ

*5 ACアダプタ含む

*6 縦置き時, 突起部/スタンドを除く。

*7 本体のみ

SCSI 編

目 次

| | | |
|-------|-----------------------------------|----|
| 第 1 章 | はじめに | 19 |
| 1.1 | SCSI 接続の概要 | 19 |
| 1.2 | 使用環境について | 20 |
| 第 2 章 | 接続について | 21 |
| 2.1 | 接続の前に | 21 |
| 2.1.1 | MO ユニットの設定 | 21 |
| 2.2 | 接続の手順 | 24 |
| 2.3 | 他の SCSI 機器との併用について | 27 |
| 第 3 章 | 接続後の作業 | 29 |
| 3.1 | Windows 環境の場合 | 29 |
| 3.1.1 | 使用可能な状態になるまで | 29 |
| 3.1.2 | ソフトウェアのインストール | 30 |
| 3.1.3 | メディアの取り出しについて | 32 |
| 3.2 | Macintosh 環境の場合 | 34 |
| 3.2.1 | フォーマットのインストール | 34 |
| 3.2.2 | メディアの取り出しについて | 35 |
| 第 4 章 | 補足事項 | 36 |
| 4.1 | トラブルシューティング | 36 |
| 4.2 | Macintosh PowerBook に接続する場合 | 40 |
| 4.3 | オプション品について | 41 |

第1章 はじめに

1.1 SCSI 接続の概要

本製品を SCSI インターフェースに接続する場合、以下のような特徴があります。

SCSI コネクタを使用することにより、多くの機種で使用することができますので、従来資産の活用に優れたパフォーマンスを発揮します。

Ultra SCSI への対応によって、最大 20MB/s（理論値）の高速データ転送が可能です。

アクティブターミネータを内蔵しているのでターミネータの設定は不要です。



ご注意

本製品に SCSI ケーブル、USB2.0 ケーブルの両方を接続することは避けてください。（SCSI 接続時には USB 2.0 ケーブルを外してください。）

1.2 使用環境について

対応パソコンについて

本製品は以下のパソコン本体に接続して使用することができます。いずれも SCSI インターフェースを標準搭載しているか、弊社 SCSI インターフェースボードを接続可能な機種に限定されます。

| | |
|-------------|------------------------------|
| 各社 | DOS/V パソコン |
| 日本電気株式会社 | PC98-NX シリーズ PC-9800 シリーズ |
| アップルコンピュータ社 | Macintosh シリーズ |



ご注意

- ・ 発売されているすべての機種で動作確認を行うのは不可能です。一部に対応できない機種が存在する可能性があることはご承知おきください。
- ・ Macintosh シリーズは、Macintosh SE/30 以降でハードディスクを内蔵した機種に限定されます。(iMac シリーズ、iBook シリーズを除く)
- ・ 推奨 SCSI インターフェースについては、第 4 章の「4.4 オプション品について」をご参照ください。

対応 OS

本製品は以下の OS で使用することができます。(いずれも日本語 OS のみ。また、パソコン本体が対応していない OS では使用できません。)

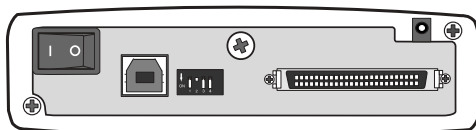
| | |
|-------------|--|
| マイクロソフト株式会社 | Windows XP HomeEdition/Professional Windows Me Windows 98 (Second Edition 含む) Windows 95 Windows 2000 Professional Windows NT 4.0 |
| アップルコンピュータ社 | Mac OS 7.6 ~ 9.2.2 |

第2章 接続について

2.1 接続の前に

2.1.1 MOユニットの設定

本製品の背面にはディップスイッチがあり、本製品のIDナンバーの設定を行います。必要に応じて設定を確認/変更してください。(本製品以外にSCSI機器を使用しない場合は、出荷時設定から変更する必要はありません。)



出荷時設定



IDナンバーの設定

IDナンバー：5

内蔵ターミネータの設定

内蔵ターミネータ：有効










ご注意

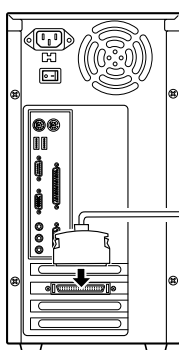
ディップスイッチの設定を変更する場合は、本製品の電源がOFFになっている状態で変更してください。電源がONになったままで変更しても認識されません。

ID ナンバースイッチの設定

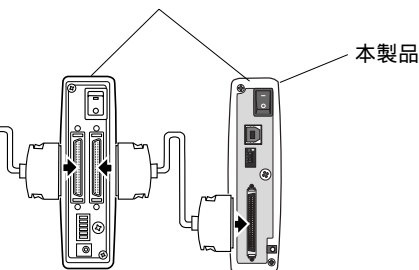
「ID ナンバー」は SCSI 機器を区別するための番号です。「0」～「6」の範囲で任意の番号に設定できますが、併用する SCSI 機器と重複があつてはいけません。(例えば、同じ SCSI インターフェースに ID ナンバー「5」に設定した機器が 2 台接続されてははいけません。どちらかを別の番号にする必要があります。)

もし、本製品以外に SCSI 機器を使用しない場合は、出荷時設定のまま、ID ナンバー「5」でご使用ください。

| | | | |
|---|---|---|---|
| ID ナンバー : 0 | ID ナンバー : 1 | ID ナンバー : 2 | ID ナンバー : 3 |
| ON  1 2 3 | ON  1 2 3 | ON  1 2 3 | ON  1 2 3 |
| ID ナンバー : 4 | ID ナンバー : 5 | ID ナンバー : 6 | |
| ON  1 2 3 | ON  1 2 3 | ON  1 2 3 | |



必ず異なる ID ナンバーに設定します。
(重複がなければ 0 ~ 6 の範囲で好きな番号に設定できます。)



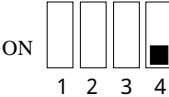
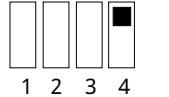
ご注意

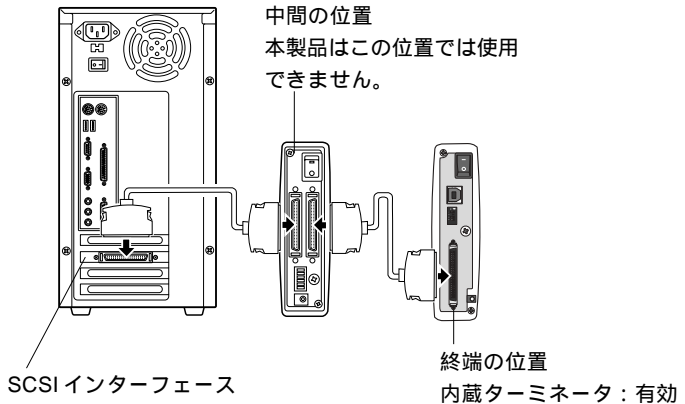
本製品は、SCSI インターフェースコネクタが 1 つのみですので、直接パソコンに接続してご使用いただくか、終端でご使用ください。本製品から先に SCSI 機器を増設することはできません。

内蔵ターミネータの設定

SCSI接続では終端(SCSIインターフェースから一番遠い位置)になる機器にターミネータと呼ばれる部品を接続して、信号を安定させます。

本製品はSCSIインターフェースコネクタが1つのみの仕様ですので、パソコンのSCSIインターフェースに直接接続するか、終端で接続でしか使用できません。このため、内蔵ターミネータは常に有効にしてご使用ください。

| 内蔵ターミネータ：有効 | 内蔵ターミネータ：無効 |
|---|---|
| ON  1 2 3 4 | ON  1 2 3 4 |



ご注意

本製品と同じようにターミネータを内蔵するSCSI機器を複数接続する場合、本製品を終端に置き、ターミネータは必ず本製品のみ「有効」に設定してください。不要に多くのターミネータが有効になっていると、過電流で機器を損傷する場合があります。

2 . 2 接続の手順

ここでは本製品のみをSCSIインターフェースに接続する手順を説明します。例としてあげられているパソコン本体はDOS/Vパソコンですが、基本的な接続方法はその他のパソコンでも同じです。

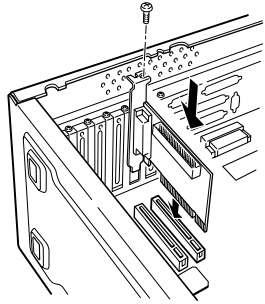
ただし、本製品をMacintosh PowerBookシリーズの旧機種（HDI 30ピンのSCSIコネクタを持つ機種で、Macintosh PowerBook2400、3400、G3を除くもの）に接続する場合は、特殊な接続方法になりますので、第4章「4 . 2 Macintosh PowerBook に接続する場合」をご参照ください。



重要なお注意

- ・ 接続の前に必ず本製品、パソコン本体、およびそこに接続されたすべての周辺機器の電源をOFFにしてください。
また、SCSIインターフェースを新規接続する場合は、必ずパソコン本体の電源コードをコンセントから外してください。SCSIインターフェースを接続する際に、内部ショートが発生すると電源がONになってしまう場合があります。危険防止のため、必ず電源コードをコンセントから外してください。
 - ・ 本製品のSCSIコネクタは接点にピンを使用しています。そのため、間違ったコネクタに差し込んだり、無理に力を加えるとピンが曲がってしまいます。
ケーブル接続時はSCSIコネクタの種類と方向を確認して、正面から接続してください。接続しにくい場合は、無理に力を加えないでピンが曲がっていないかどうか確認してください。
-

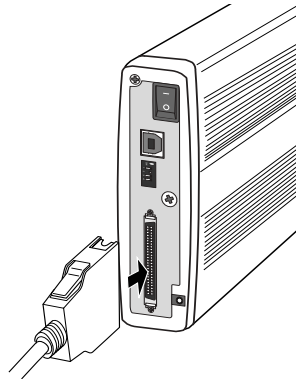
SCSI インターフェースを内蔵していないパソコン本体の場合は、最初に SCSI インターフェースボードを接続します。詳細については SCSI インターフェースボードのマニュアルをご参照ください。



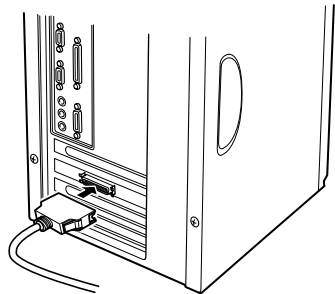
2

本製品の SCSI コネクタに、本製品付属ケーブルを接続します。

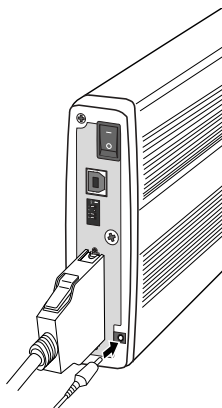
カチッとロック
したことを確認



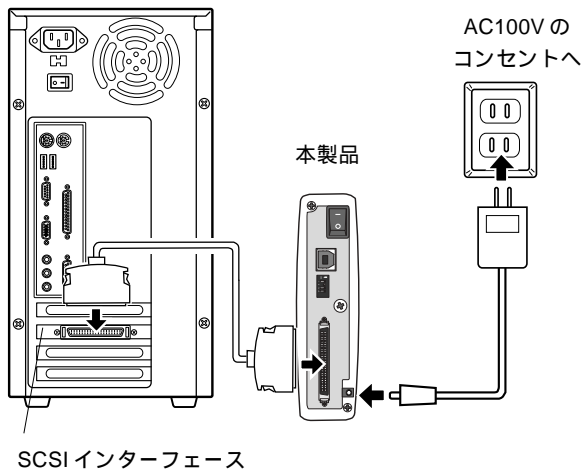
本製品付属ケーブルのもう片方のコネクタを、SCSI インターフェースの外部 SCSI コネクタに接続します。



本製品の電源コネクタにACアダプタのプラグを接続します。ACアダプタはAC100Vのコンセントに接続します。

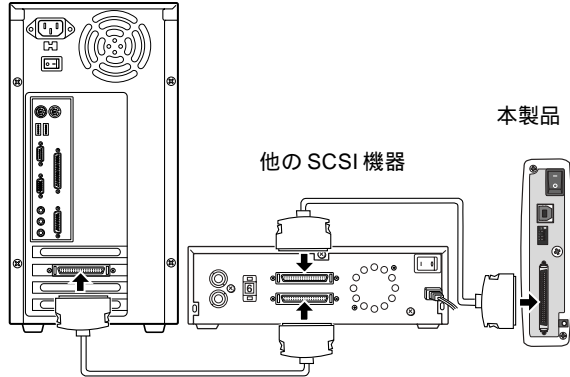


以上で接続は終了です。下の接続図と比べて、間違いがないことを確認してください。



2.3 他の SCSI 機器との併用について

SCSI 規格では、複数の SCSI 機器を数珠つなぎにして1つの SCSI インターフェイスに接続することができます。本製品を他の SCSI 機器と併用する場合は、下の接続図のように接続してください。



注意事項

- ・ケーブル長、接続台数は原則的に以下の通りです。詳細については SCSI インターフェイスボードのマニュアルをご参照ください。
ケーブル長は内蔵ケーブルも含むすべての合計です。(ケーブルは短ければ短いほど動作が安定します。)

| | ケーブル長の合計 | 接続台数 |
|-----------|----------|------|
| FastSCSI | 3m以下 | 4台以下 |
| UltraSCSI | | 3台以下 |

- ・ケーブル長は内蔵ケーブルも含むすべての合計が3m以下でなければなりません。(ケーブルは短ければ短いほど動作が安定します。)
- ・IDナンバーは必ず重複しないように設定してください。
- ・本製品は必ず終端で使用し、内蔵のターミネータを「有効」に設定して、他のターミネータは無効としておいてください。



ご注意

- ・ SCSI 機器の中には、本製品と同じようにターミネータを内蔵しているものもあります。このような機器を併用する場合は、必ず終端となる機器のターミネータだけを有効にしてください。(中間に接続された機器のターミネータはすべて無効にします。)
不要に多くのターミネータが有効になっていると、過電流で機器を損傷する場合があります。
 - ・ SCSI 機器の中には、オートターミネーション機能(内蔵ターミネータを自動的に有効 / 無効に設定する機能)を持つものもあります。このような SCSI 機器を接続する場合は、SCSI 機器のマニュアルにしたがって接続を行ってください。
-

第3章 接続後の作業

3.1 Windows 環境の場合

3.1.1 使用可能な状態になるまで

接続が完了したら、パソコン本体の電源をONにして、Windowsのシステムを起動してください。

SCSIインターフェースボードを新規接続した場合は、Windowsのシステム起動が完了する前に、プラグ&プレイでSCSIインターフェースボードが認識され、ドライバのインストール作業に入ります。SCSIインターフェースボードのマニュアルにしたがってインストール作業を行ってください。

Windowsのシステム起動が完了したら、「マイコンピュータ」をダブルクリックして開いてください。すべての作業に問題がなければ、本製品がリムーバブルディスクとして認識され、したの図のように新しいリムーバブルディスクのアイコンが登録されているはずです。

もし、本製品がリムーバブルディスクとして認識されていない場合は、第4章の「4.1 トラブルシューティング」にしたがってチェックを行ってください。

Windows 98,Me,2000 等では



本製品のアイコン
ドライブ名は異なる
可能性があります。

Windows XP では...



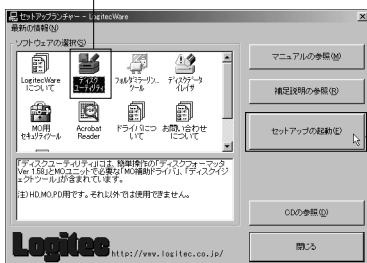
本製品にフォーマットされたMOメディアをセットして、このアイコンをダブルクリックすると、セットしたMOメディアにアクセスすることができます。

3.1.2 ソフトウェアのインストール

本製品には、MOメディアを使用する上で必要なソフトウェア(フォーマッタ等)が、「ディスクユーティリティ」として添付されています。

本製品付属の「LogitecWare」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットすると自動起動する「セットアップランチャー」から、「ディスクユーティリティ」をインストールしてください。(下図参照)

1. 「ディスクユーティリティ」のアイコンを
1回クリックして、選択状態にします。



2. 「セットアップの
起動」をクリック
します。

Point

ポイント

Windows Me, 98/95 をご使用の場合、ディスクユーティリティには「ディスクフォーマッタ」、「ディスクイジェクトツール」、「MO 補助ドライバ」が含まれています。これらのユーティリティは本製品を使用する上で必要ですので、必ずすべてインストールしてください。

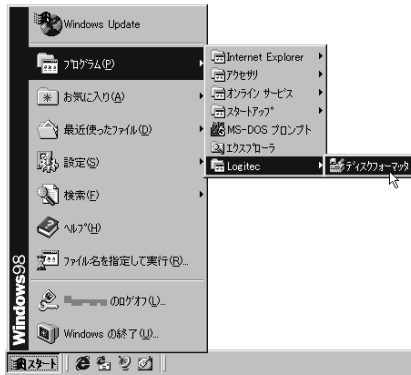


Windows XP, 2000, NT 4.0 の場合、ディスクユーティリティは「MOメディアフォーマッタ」のみです。

MOメディアのフォーマットは

MOメディアのフォーマットは「ディスクユーティリティ」に含まれる「ディスクフォーマッタ」(Windows XP, 2000, NT 4.0の場合は「MOメディアフォーマッタ」)で行います。

ディスクユーティリティのインストールが終了したら、ディスクフォーマッタはタスクバー上の「スタート」ボタンをクリックして、「プログラム」「Logitech」とポイントし、「ディスクフォーマッタ」(もしくは「MOメディアフォーマッタ」)をクリックすることで起動できます。



また、Windows Me, 98/95 でインストール時にデスクトップ上にショートカットアイコンを作成した場合は、デスクトップ上の右のアイコンをダブルクリックしても起動することができます。



フォーマッタが起動したら、本製品のフォーマットを行います。フォーマットの手順については、ディスクフォーマッタのヘルプメニューから「トピックの検索」を選択し、表示されるヘルプウィンドウで「操作方法」「MOメディアのフォーマット」をご参照ください。



参考

Windows XP, 2000, NT 4.0用のMOメディアフォーマッタにはヘルプはありません。必要に応じて、「LogitechWare」CD-ROMのオンラインマニュアルを参照してください。

3 . 1 . 3 メディアの取り出しについて

Windows には遅延書き込み機能 (*1) があるため、メディアを取り出すときは本製品前面のイジェクトボタンを使用するよりも、ソフトウェアによる取り出しを行ったほうが安全です。

取り出しの手順は使用するOSによって異なります。次ページをご参照ください。

*1 書き込みデータをメモリ上のキャッシュに蓄積することによって、見かけ上高速に書き込みを終了する機能。パフォーマンスは向上するが、書き込みデータがメモリ上に残った状態でMOメディアを取り出すと、データが失われる危険性がある。

Windows Me , 98/95 の場合

Windows Me , 98/95 上でMOメディアを取り出したい場合は、ディスクユーティリティインストール時にインストールされたイジェクトツールを使用します。タスクバーの右図のアイコンをクリックして、表示されるメニューから本製品のドライブ名を選択してください。



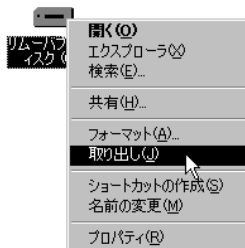
このアイコンをクリックします。

この操作を行うと、MOメディアが1cmほど排出されますので、静かに引き出してください。

Windows XP, 2000, NT 4.0の場合

Windows XP, 2000, NT 4.0 上で MO メディアを取り出したい場合は、「マイコンピュータ」に登録された本製品のアイコン(リムーバブルディスク)を右クリックして、表示されるメニューから「取り出し」を選択してください。

この操作を行うと、MO メディアが 1cm ほど排出されますので、静かに引き出してください。



ご注意

- Windows XP, 2000, NT 4.0 で MO メディアを取り出すには、管理者権限を持つグループ(例えば Administrators グループ)のメンバーとしてログオンする必要があります。
- Windows NT 4.0 では、NTFS 形式でフォーマットされた MO メディアをシステムが起動している状態で取り出すことはできません。これを取り出したい場合は、システムを終了してからイジェクトボタンを押してください。

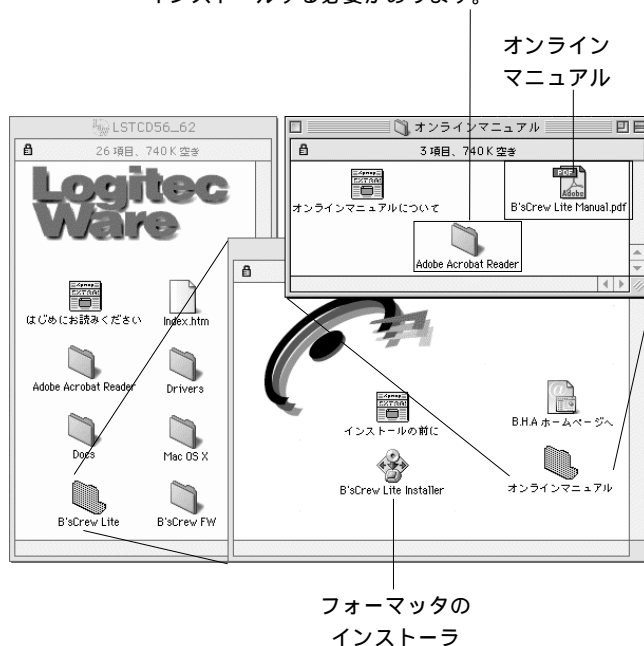
3.2 Macintosh 環境の場合

3.2.1 フォーマッタのインストール

本製品を Mac OS 9.2.2 以前の環境で使用する場合、Macintosh 用フォーマッタ「B'sCrew Lite」をインストールしなければなりません。このフォーマッタは、付属の「LogitecWare」CD-ROM に収録されています。インストール手順、およびMOメディアのフォーマット手順については、オンラインマニュアルを参照してください。

3

オンラインマニュアルを参照するには、このソフトウェア(Adobe Acrobat Reader)をインストールする必要があります。



3.2.2 メディアの取り出しについて

Mac OS 上でMOメディアを取り出したい場合は、デスクトップ上にマウントされたMOメディアのアイコンをゴミ箱のアイコンに重ねてください。

この操作を行うと、MOメディアが1cmほど排出されますので、静かに引き出してください。



ご注意

本製品前面のイジェクトボタンはMac OS が起動していないときに使用します。Mac OS 稼動中は使用しないでください。

第4章 補足事項

4.1 トラブルシューティング

本製品を接続したら、システムが起動しなくなった。

本製品のIDナンバーが他のSCSI機器と重複していないかどうか確認してください。

Windows環境で本製品が認識されない。

本製品の電源の状態と接続の状態をもう一度確認してください。
SCSIインターフェースは正常に認識されていますか？ SCSIインターフェースのドライバはインストールされていますか？

Macintosh環境で本製品が認識されない。

Macintosh用フォーマット「B'sCrew Lite」はインストールされていますか？
システム起動時に表示されるアイコンに「！」マークや「？」マークが付いていないかどうか確認してください。

時々エラーが発生するなど、

本製品の動作が安定しない。

SCSIコネクタなどに接触不良はありませんか？

本製品のディップスイッチでターミネータの設定状態を確認してください。本製品の内蔵ターミネータは常に有効に設定されていなければなりません。本製品以外の機器が接続されている場合、他の機器のターミネータは全て無効に設定されていなければなりません。複数の機器を接続する場合、本製品のみが終端に接続可能です。

ケーブルが長すぎませんか？ 複数の機器を接続している場合は、本製品だけを接続して試してください。また、インピーダンスの低いケーブルはトラブルの原因となります。可能であればケーブルを交換して試してください。

MOメディアのアクセス時にエラーが発生する。

MOメディアは汚れていませんか？ ディスク・クリーニングを行っててください。

MOメディアの不良も考えられます。別のディスクで試してください。これで問題がなければ、エラーが発生するMOメディアのデータをバックアップして、物理フォーマットからやり直してください。

前項目（動作が安定しない）と同じように、ターミネータ（ディップスイッチ）/ケーブルの状態を確認してみてください。

特定のMOメディアをアクセスできない。

そのMOメディアはフォーマットされていますか？ 一般にMOメディアは物理フォーマット済みで発売されていますが、物理フォーマットのみではアクセスはできません。本製品付属のフォーマッタでフォーマット（論理フォーマット）を行ってください。

MOメディアではスーパーフロッピーフォーマットの形式が一般的ですが、ハードディスク形式やMacintoshシリーズ専用フォーマットされたディスクもあります。異なるシステムとデータ交換を行う場合には、スーパーフロッピーフォーマットのMOメディアを使用してください。（MacintoshシリーズでスーパーフロッピーフォーマットのMOメディアを使用するには、MacOS標準のユーティリティ「PC Exchange」が必要です。）

そのMOメディアが本製品で利用できる容量のものかどうかを確認してください。使用可能なMOメディアについては、「共通編4：メディアに関して」をご参照ください。

MOメディアに書き込みができない。

MOメディアのライトプロテクト・ノッチがプロテクト側に設定されていませんか？

特定のソフトウェア（ディスク修復ツールなど）で MOメディアを使用できない。

一部のユーティリティソフトウェアでは、動作対象がハードディスクのみになっている場合があります。ソフトウェアメーカーに問い合わせ、そのソフトウェアがMOメディアを動作対象としているかどうかを確認してください。

一部のソフトウェアでは、動作中のディスク交換の問題などからインストール対象をハードディスクに限定している場合があります。ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

Windows 95 上でMOメディアの

フォーマットを行うと非常に時間がかかる。

PC-9800 シリーズ用の Windows 95 でこのようなトラブルが発生することが確認されています。本製品付属のフォーマッタをご使用ください。

Windows NT 4.0 でMOメディアをアクセスすると

「パラメータに誤りがあります。」のエラーが表示される。

Windows NT 4.0 でサポートされていない形式でフォーマットされています。本製品付属のフォーマッタで再フォーマットする必要があります。

Windows NT 4.0 でドライブ文字の割り当てができない。

Windows NT 4.0 の仕様です。本製品を外した状態でHD、CD-ROM へのドライブ文字の割り当てをすることで、A から Z の順番でHD、CD-ROM の空き番号が割りあてられます。

MOメディアがイジェクトできない。

アクセス表示ランプが点灯していないか確認してください。アクセス中はイジェクトできませんので、アクセスが終了するまでお待ちください。

ソフトウェアの中には、MOメディアのイジェクトを禁止するものがあります。現在使用中のソフトウェアを終了して試してください。

上記の項目に当てはまらない場合、一度システムを終了し、パソコン本体および本製品の電源を再投入して、試してください。それでもだめな場合は、共通編13ページの「メディアが取り出せなくなった場合は」を参照してメディアを強制イジェクトしてください。

その他：ソフトウェアの最新バージョン入手方法など

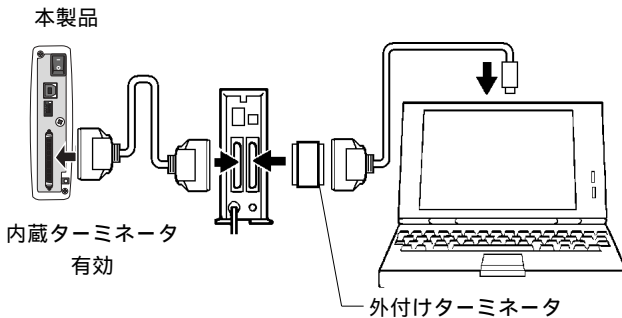
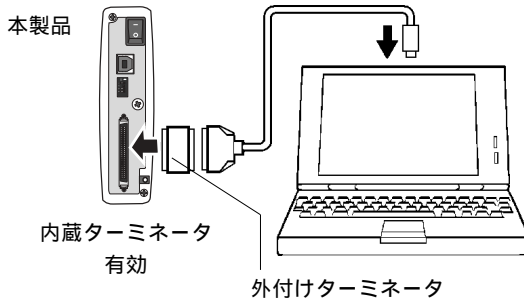
弊社ではインターネット上にホームページを開設しています。ホームページにはソフトウェアのダウンロードコーナーもありますのでご活用ください。

ホームページアドレス：<http://www.logitech.co.jp/>

4 . 2 Macintosh PowerBook に接続する場合

Point

Macintosh PowerBook シリーズの旧機種 (HDI 30 ピンの SCSI コネクタを持つ機種で、Macintosh PowerBook 2400、3400、G3 を除くもの) では、SCSI インターフェイスにターミネータが内蔵されていません。そのため、これらの機種では、SCSI 機器を挟み込むように 2 個のターミネータを必要とします。つまり本製品の内蔵ターミネータが有効に設定されていても、別途外付けターミネータが必要だということです。(Macintosh PowerBook 2400、3400、G3 はターミネータを内蔵していますので、外付けターミネータは必要ありません。)



図のように外付けターミネータは、両端に SCSI コネクタを持つタイプ (両切) でなければなりません。本製品に接続可能な両切のターミネータは以下の型番で弊社より発売されています。

LSR-A52A (D-sub ハーフピッチ 50 ピン × 2)

4.3 オプション品について

弊社ではインターフェースボードやケーブル類を別売のオプション品として取り扱っております。オプション品のお求めは、お買い求めいただいた販売店またはロジテックの安心オンラインショップ「ロジテックダイレクト」にてお求め下さい。

ロジテックダイレクトホームページ

<http://www2.ld.logitec.co.jp/>

ケーブル

| ケーブル | 長さ | SCSIコネクタ |
|--------------|------|--------------------------------------|
| CB-51WW-003 | 0.3m | D-subハーフピッチ50ピン D-subハーフピッチ50ピン |
| CB-51WW-008 | 0.8m | |
| CB-51HW-003 | 0.3m | アンフェノールハーフピッチ50ピン D-subハーフピッチ50ピン |
| CB-51HW-008 | 0.8m | |
| CB-2550D-005 | 0.5m | D-sub25ピン D-subハーフピッチ50ピン |
| CB-51HB-003 | 0.3m | アンフェノールフルピッチ50ピン D-subハーフピッチ50ピン |
| CB-51HB-008 | 0.8m | |
| CB-PBA50-005 | 0.5m | HDI30ピン D-subハーフピッチ50ピン |

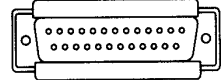
コネクタ形状



D-sub ハーフピッチ 50 ピン
(本製品のコネクタ形状)



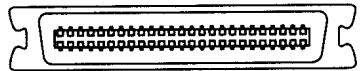
HDI 30 ピン



D-sub 25 ピン



アンフェノール
ハーフピッチ 50 ピン



アンフェノール
フルピッチ 50 ピン

PCIバス用 SCSI インターフェースボード

| SCSIインターフェース | バス | 使用 | SCSIコネクタ |
|--------------|-----|------------|------------------------|
| LHA - 600S | PCI | Ultra SCSI | D - sub ハーフピッチ 50ピン |

上記SCSIインターフェースボードは、「P」モデルに標準添付されているものと同じです。

上記 SCSI インターフェースボードは、DOS/V パソコン、PC98-NX シリーズ、PC-9800 シリーズ、Macintosh シリーズ共通で使用できます。

CardBus 用 SCSI インターフェースカード

| SCSIインターフェース (PCカード) | バス | 使用 | SCSIコネクタ |
|-------------------------|---------|------------|------------------------|
| LPM - SCSI3EH | Cardbus | Ultra SCSI | D - sub ハーフピッチ 50ピン |

上記 SCSI インターフェースカードは、DOS/V パソコン、PC98-NX シリーズ、PC9800 シリーズ、Macintosh シリーズで共通使用できます。

USB 編

目次

| | | |
|-------|------------------------------|----|
| 第 1 章 | はじめに | 45 |
| 1.1 | USB 接続の概要 | 45 |
| 1.2 | 使用環境 | 46 |
| 1.3 | 接続の前に | 47 |
| 第 2 章 | Windows Me, 98 の場合 | 48 |
| 2.1 | 接続とインストール (Windows Me) | 48 |
| 2.2 | 接続とインストール (Windows 98) | 52 |
| 2.3 | フォーマットについて | 56 |
| 2.4 | メディア取り出しについて | 58 |
| 2.5 | 本製品を取り外す場合は | 59 |
| 第 3 章 | Windows XP、2000 の場合 | 61 |
| 3.1 | 接続とインストール | 61 |
| 3.2 | 接続 / インストール結果の確認 | 63 |
| 3.3 | フォーマットについて | 65 |
| 3.4 | メディアの取り出しについて | 66 |
| 3.5 | 本製品を取り外す場合は | 67 |
| 第 4 章 | Macintosh の場合 | 69 |
| 4.1 | 接続とインストール | 69 |
| 4.1.1 | ドライバのインストール | 69 |
| 4.1.2 | 本製品の接続 | 72 |
| 4.2 | MO メディアのフォーマット手順 | 73 |
| 4.3 | 補足事項 | 76 |
| 第 5 章 | 補足事項 | 77 |
| 5.1 | トラブルシューティング | 77 |

第1章 はじめに

1.1 USB 接続の概要

本製品を USB インターフェースに接続する場合、以下のような特徴があります。

USB 2.0 ポートにつなぐことによって、従来の USB 1.1 接続より最大で約40倍の480Mbps(理論値)の高速転送を実現することができます。また従来の USB 1.1 ポートにも接続ができるので非常に幅広いパソコンに接続して使用することができます。

USB インターフェースは現在ほとんどのパソコンに標準搭載されています。インターフェースボードやPCカードを使用することなく、ほとんどのパソコンに直接接続することができます。

ホットプラグ(パソコン本体の電源がONになっている状態での着脱)が可能です。必要になったときだけパソコンに接続し、バックアップや大容量データの交換などの用途に最適です。

付属の USB ケーブルは、USB 2.0 に対応しています。USB 2.0 に対応したケーブルは USB 1.1 でもご使用いただけます。



ご注意

- ・本製品をバスパワーで使用することはできません。必ず付属の AC アダプタを接続してください。
- ・本製品に SCSI ケーブル、USB2.0 ケーブルの両方を接続することは避けてください。(USB 接続時には SCSI ケーブルを外してください。)
- ・本製品を USB 2.0 ポートに接続する場合、必ず USB2.0 に対応したケーブルをご使用ください。USB 2.0 非対応のケーブルで接続しますと、データのエラーなどトラブルの原因となります。

1 . 2 使用環境

1

本製品を USB 2.0 / 1.1 インターフェースに接続する場合は、以下のよう
な環境条件を満たしていなくてはなりません。

対応パソコンについて

本製品を USB 2.0 / 1.1 インターフェースに接続する場合は、以下のパ
ソコン本体に接続可能です。すべて USB ポートを搭載している機種に限
定されます。また、High-Speed での転送を実現するためにはパソコン本
体のインターフェースが USB 2.0 に対応していなければなりません。

| | |
|-------------|-----------------------------------|
| 各社 | DOS/V パソコン |
| 日本電気株式会社 | PC98-NX シリーズ |
| アップルコンピュータ社 | iMac |
| | eMac |
| | iBook |
| | PowerMac G5 |
| | Power Mac G4 |
| | Power Macintosh G3 (Blue & White) |
| | PowerBook |

対応 OS について

本製品を USB 2.0 / 1.1 インターフェースに接続する場合には、以下の
OS をご使用ください。すべて日本語版 OS のみに限定されます。また、パ
ソコン本体が対応していない OS では使用することができません。

マイクロソフト株式会社
Windows XP Home Edition / Professional
Windows Me
Windows 98 (Second Edition 含む)
Windows 2000 Professional

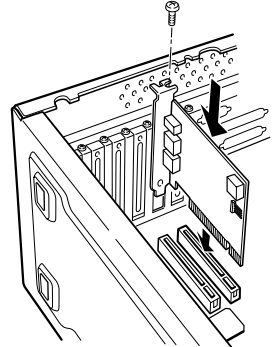
アップルコンピュータ社
Mac OS 8.6 ~ Mac OS 9.2.2
Mac OS X 10.0.4 以降

1.3 接続の前に

USB 2.0 インターフェイスボードの接続

パソコン本体に USB 2.0 ポートがない場合は別売りの USB 2.0 インターフェイスボード（PCI 用インターフェイスボード、もしくは CardBus 対応 USB 2.0 インターフェイスカード）が必要になります。

この場合、本製品の接続を行う前に USB 2.0 インターフェイスボードのマニュアルにしたがって接続やドライバのインストールを行っておいてください。（本製品を USB 1.1 ポートに接続して使用する場合はこの作業は不要です。その場合の最大転送速度は従来の USB 1.1 と同様 Full-Speed（12Mbps）になります。）



USB 2.0 インターフェイスボードは、以下の型番で弊社から発売されているものをご使用ください。

Windows 環境（DOS/V パソコン、PC98-NX シリーズ）用

PCI バス用 USB 2.0 インターフェイスボード

| 型番 | バス | 備考 |
|-----------|-----|---------------|
| LHA-USB2N | PCI | インターフェイスボード単体 |

CardBus 対応 USB 2.0 インターフェイスカード

| 型番 | バス | 備考 |
|------------|---------|---------------|
| LPM-CBUSB2 | CardBus | インターフェイスカード単体 |

Power Mac G4 シリーズ、Power Mac G3（Blue&White）シリーズ用

PCI バス用 USB 2.0 インターフェイスボード

| 型番 | バス | 備考 |
|------------|-----|---------------|
| LHA-USB2/M | PCI | インターフェイスボード単体 |

Windows 環境でもご使用になれます。

第2章

Windows® Me , 98 の場合

本章では、Windows Me , 98環境での本製品の接続とインストールの手順をご説明いたします。接続先のパソコンにUSB 2.0ポートがあるものとして説明を進めますが、ご使用のパソコンにUSB 2.0ポートがない場合には、接続先をUSB 1.1ポートにして本製品の接続とインストールを進めてください。

2

2 . 1 接続とインストール (Windows Me)

本製品を Windows Me 上で使用する場合、本製品を接続する前に以下の手順でドライバをインストールしなければなりません。



ご注意

Windows Me の場合、ドライバをインストールしていない状態で本製品を接続すると、パソコンがハングアップ状態（キーボードやマウスの操作をまったく受け付けない状態）になる危険性があります。必ず最初にドライバのインストールを行ってください。

インストールの手順

本製品を接続していない状態で Windows のシステムを起動してください。起動が完了したら本製品付属の「LogitechWare」CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットしてください。

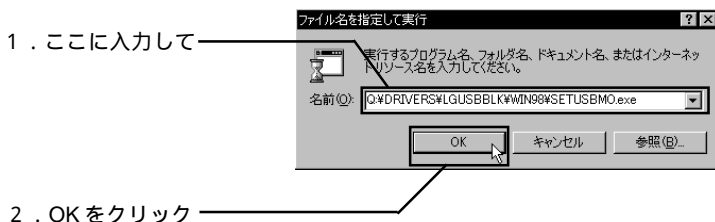


ポイント

ここでCD-ROMの自動挿入機能が有効になっていると、自動的にセットアップランチャーが起動しますが、この手順ではセットアップランチャーを使用しませんので「終了」と書かれたボタンをクリックして、セットアップランチャーのウィンドウを閉じてください。

タスクバー上の「スタート」ボタンをクリックし、表示されるメニューから「ファイル名を指定して実行」を選択してください。

以下のウィンドウが表示されますので、「名前」のテキストボックスに「Q:\¥DRIVERS¥LGUSBBLK¥WIN98¥SETUSBMO.exe」と入力して、OK ボタンをクリックしてください。

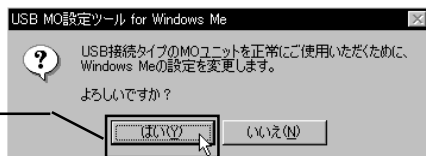


Point ポイント

ここで「Q:」はCD-ROMドライブのドライブ名です。異なる場合は正しいドライブ名を指定してください。

USB MO設定ツール for Windows Me が起動します。

「はい」をクリック



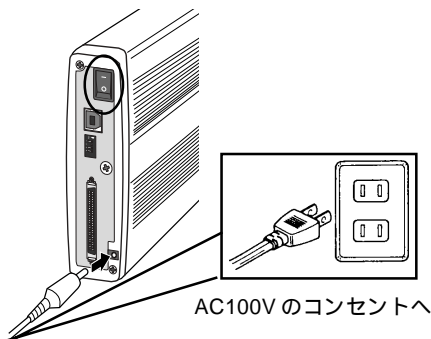
必要なファイルがシステムに転送されます。転送が終了すると右のウィンドウが表示されます。

「OK」をクリック



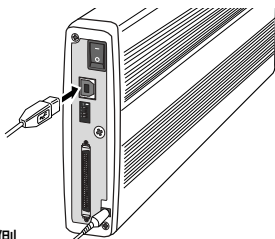
以上でインストールは終了です。CD-ROM をドライブから取り出しておいてください。

続いて本製品の接続を行います。本製品背面の電源コネクタに付属のACアダプタのプラグを接続します。ACアダプタはAC100Vのコンセントに接続してください。ACアダプタの接続ができたなら、本製品の電源スイッチをONにします。

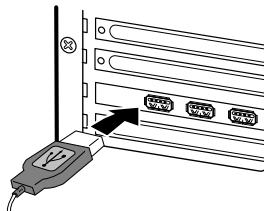


AC100Vのコンセントへ

本製品の電源表示ランプが点灯したことを確認して、付属のUSBケーブルで本製品のUSBシリーズBコネクタと、パソコン本体のUSBポートを接続してください。



本製品側
断面が正方形に近いコネクタ



パソコン本体側
断面が平たいコネクタ



重要なお注意

本製品をUSB 2.0ポートへ接続する際は、ケーブルは必ず本製品付属のものか、USB 2.0対応ケーブルを使用してください。USB 1.1用ケーブルでUSB 2.0ポートに接続して本製品を使用すると、データの書き込みエラーなどの障害が発生します。USB 1.1ポートへ接続して使用する際はUSB 2.0ケーブル、USB 1.1ケーブル、どちらでも構いません。



ご注意

本製品をUSB 2.0で使用される場合、パソコン本体への接続は必ずUSB 2.0拡張ポートへ接続してください。標準搭載されているUSB 1.1ポートでの使用も可能ですが、その場合の最大転送速度は従来と同じFull-Speed (12Mbps) となります。

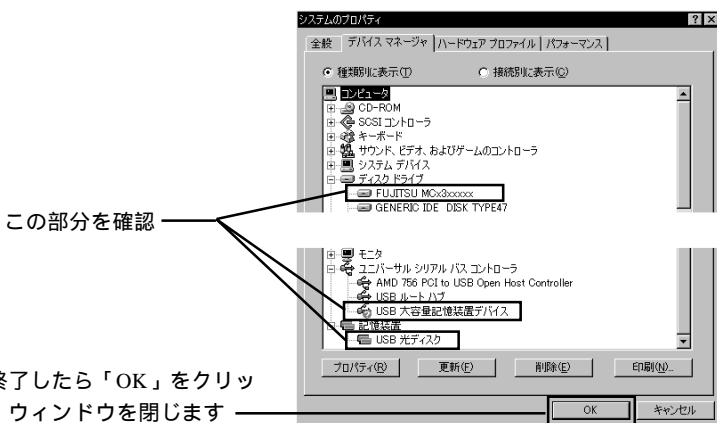
本製品がプラグ&プレイで認識され、ドライバの組み込みが全て自動的に行われます。(ここでユーザーが操作を行う必要はありません。)

作業が完成したら、最後に結果を確認します。「コントロールパネル」から「システム」を起動して、「デバイスマネージャ」タブをクリックしてください。以下の様に3つのデバイスが登録されていたらインストールは正常に終了しています。

「ディスクドライブ」の下に「FUJITSU MCx3xxxxx」があることを確認します。

「ユニバーサル シリアル バスコントローラ」の下に「USB 大容量記憶装置デバイス」があることを確認します。

「記憶装置」の下に「USB 光 ディスク」があることを確認します。



これらのデバイスが表示されたら、本製品の接続と認識は正常に行われています。次にMOメディアのフォーマットについて説明しますので2.3節へお進みください。

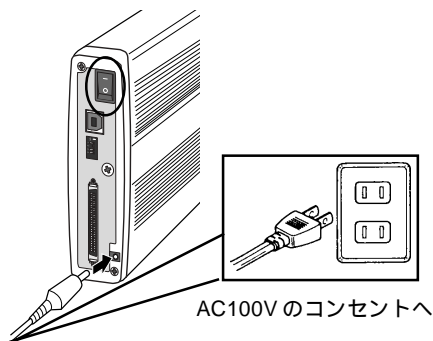
参考

- ・「USB 大容量記憶装置デバイス」の表示に「？」マークが付いていますがこれは異常ではありません
- ・ディスクドライブ名の「FUJITSU MCx3xxxxx」の中のx3xxxxxには、本製品内蔵のMOドライブの型番が入ります。

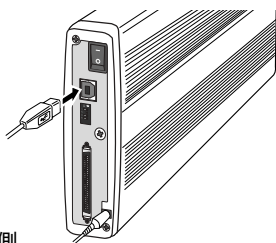
2 . 2 接続とインストール (Windows 98)

パソコン本体の電源を ON にして、Windows のシステムを起動してください。

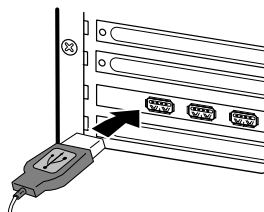
本製品背面の電源コネクタに付属の AC アダプタのプラグを接続します。AC アダプタは AC100V のコンセントに接続してください。AC アダプタの接続ができたなら、本製品の電源スイッチを ON にします。



本製品の電源表示ランプが点灯したことを確認して、付属の USB ケーブルで本製品の USB シリーズ B コネクタと、パソコン本体の USB ポートを接続してください。



本製品側
断面が正方形に近いコネクタ



パソコン本体側
断面が平たいコネクタ



重要なお注意

本製品を USB 2.0 ポートへ接続する際は、ケーブルは必ず本製品付属のものが、USB 2.0 対応ケーブルを使用してください。USB 1.1 用ケーブルで USB 2.0 ポートに接続して本製品を使用すると、データの書き込みエラーなどの障害が発生します。USB 1.1 ポートへ接続して使用する際は USB 2.0 ケーブル、USB 1.1 ケーブル、どちらでも構いません。



ご注意

本製品を USB 2.0 で使用される場合、パソコン本体への接続は必ず USB 2.0 拡張ポートへ接続してください。標準搭載されている USB 1.1 ポートでの使用も可能ですが、その場合の最大転送速度は従来と同じ Full-Speed (12Mbps) となります。

本製品を接続すると、プラグ & プレイで認識されて、新しいハードウェアの追加ウィザードが起動します。

「次へ」をクリック



右のウィンドウが表示されます。

1. 「使用中のデバイスに・・・」
が選択されている状態で

2. 「次へ」をクリック



右下のウィンドウが表示されたら、CD-ROM ドライブに本製品付属の「Logitec Ware」CD-ROM をセットしてください。

1. 「検索場所の指定」だけがチェックされた状態にして

2. ここに以下のように入力して

Q:¥DRIVERS¥LGUSBBLK¥WIN98

3. 「次へ」をクリック



Point

ポイント

ここで「Q:」はCD-ROM ドライブのドライブ名です。異なる場合は正しいドライブ名を指定してください。

右のウィンドウが表示されます。

「次へ」をクリック



必要なファイルがシステムに転送され、右のウィンドウが表示されます。

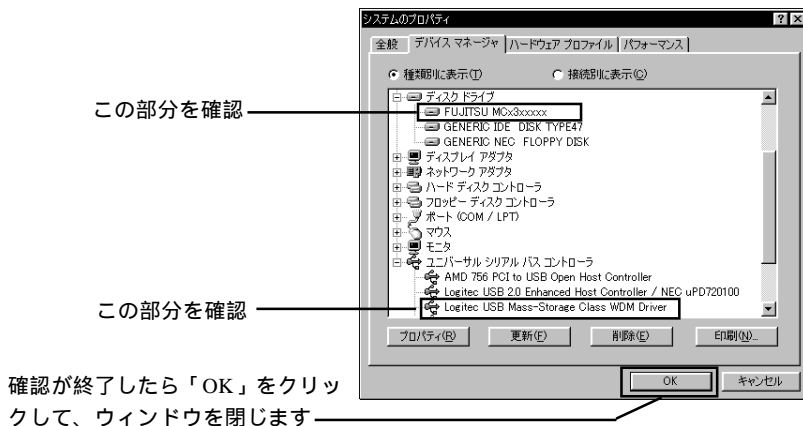
「完了」をクリック



作業が終了したら最後に接続/インストール結果を確認します。「コントロールパネル」から「システム」を起動して、「デバイスマネージャ」タブをクリックしてください。以下の様に2つのデバイスが登録されていたらインストールは正常に終了しています。

「ディスクドライブ」の下に「FUJITSU MCx3xxxx」があることを確認します。

「ユニバーサル シリアル バスコントローラ」の下に「Logitech USB Mass-Storage Class WDM Driver」があることを確認します。



これらのデバイスが表示されたら、本製品の接続と認識は正常に行われています。次にMOメディアのフォーマットについて説明しますので次節へお進みください。



参考

ディスクドライブ名の「FUJITSU MCx3xxxx」の中のx3xxxxには、本製品内蔵のMOドライブの型番が入ります。

2.3 フォーマットについて

Windows Me, 98の場合、MOメディアのフォーマットは付属のユーティリティ「ディスクフォーマッタ」で行います。

本製品付属の「LogitecWare」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットすると自動起動する「セットアップランチャー」から、「ディスクユーティリティ」をインストールしてください。(下図参照)

1. 「ディスクユーティリティ」のアイコンを1回クリックして、選択状態にします。



2. 「セットアップの起動」をクリックします。

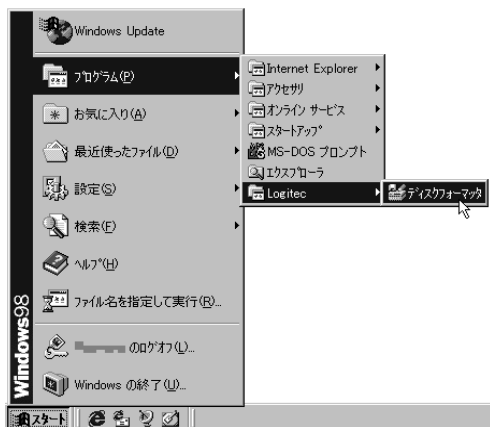
Point

ポイント

ディスクユーティリティには「ディスクフォーマッタ」以外にも、「ディスクジェクトツール」と「MO補助ドライバ」が含まれています。これらのユーティリティは本製品を使用する上で必要ですので、必ずインストールしてください。



インストールが終了したら、ディスクフォーマッタはタスクバー上の「スタート」ボタンをクリックして、「プログラム」「Logitech」とポイントし、「ディスクフォーマッタ」をクリックすることで起動できます。



2

また、インストール時、デスクトップ上にショートカットアイコンを作成した場合は、デスクトップ上の右のアイコンをダブルクリックしても起動することができます。



ディスクフォーマッタが起動したら、MOメディアのフォーマットを行います。フォーマットの手順については、ディスクフォーマッタのヘルプメニューから「トピックの検索」を選択し、表示されるヘルプウィンドウで「操作方法」「MOメディアのフォーマット」をご参照ください。

2 . 4 メディア取り出しについて

Windows Me , 98 上で MO メディアを取り出したい場合は、ディスクユーティリティインストール時にインストールされたイジェクトツールを使用します。タスクバーの右図のアイコンをクリックして、表示されるメニューから本製品のドライブ名を選択してください。



このアイコンをクリックします。

この操作を行うと、MOメディアが1cmほど排出されますので、静かに引き出してください。



ご注意

本製品前面のイジェクトボタンはWindowsのシステムが起動していないときに使用します。Windows稼働中は使用しないでください。

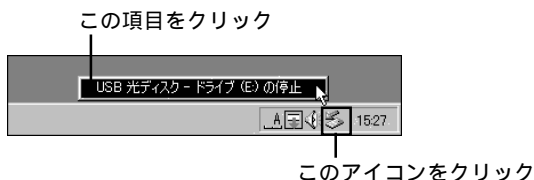
2.5 本製品を取り外す場合は

本製品はインターフェースとしてUSBを採用しているため、ホットプラグオフ（パソコン本体の電源がONの状態での取り外し）が可能です。しかし、これは「いつでも取り外して良い」という意味ではありません。本製品を取り外す場合は、必ず以下の手順に従ってください。

本製品にMOメディアがセットされている場合は、これを取り出してください。

本製品を接続した状態では、タスクバーのシステムトレイに以下のようなアイコンが表示されます。このアイコンをクリックして、表示されるメニューから、

Windows Me では、「USB 光ディスク - ドライブ (E:) の停止」をクリックしてください。



Windows 98 では、「停止 - [DiskDrive] FUJITSU MCx3xxxxx E:」をクリックしてください。



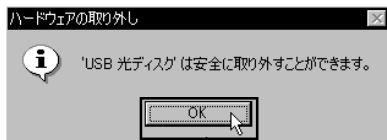
Point

ポイント

- ・ここで「E:」は本製品のドライブ名ですので環境によって異なります。
- ・Windows 98 で表示される「停止 - [DiskDrive] FUJITSU MCx3xxxxx E:」の中のx3xxxxxには、本製品内蔵のMOドライブの型番が入ります。

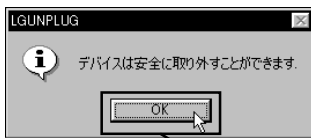
2.5 本製品を取り外す場合は

Windows Me では「USB 光ディスクは安全に取り外すことができます。」と表示されますので「OK」をクリックしてください。



「OK」ボタンをクリック

Windows 98 では「デバイスは安全に取り外すことができます。」と表示されますので「OK」をクリックしてください。



「OK」ボタンをクリック

USB ケーブルを外し、本製品の電源を OFF にして AC アダプタを外してください。

第3章 Windows® XP、2000 の場合

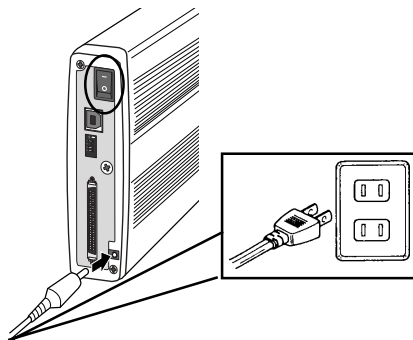
3.1 接続とインストール

ここでは本製品を接続して、ドライバをインストールするまでの手順を説明します。以下の手順は Windows XP、2000 のシステムが起動した状態で行います。接続先のパソコンに USB 2.0 ポートがあるものとして説明を進めますが、ご使用のパソコンに USB 2.0 ポートがない場合には、接続先を USB 1.1 ポートにして本製品の接続とインストールを進めてください。

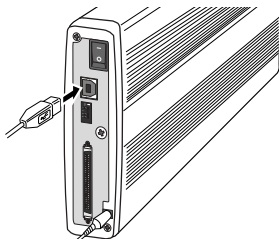
Point

パソコン本体の電源を ON にして、Windows のシステムを起動し、管理者権限を持つグループ（例えば Administrators グループ）のメンバーとしてログオンしてください。

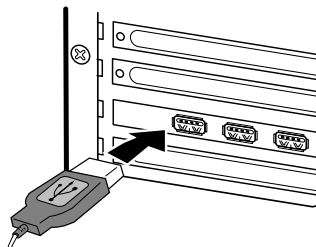
本製品背面の電源コネクタに付属の AC アダプタのプラグを接続します。AC アダプタは AC100V のコンセントに接続してください。AC アダプタの接続ができれば、本製品の電源スイッチを ON にします。



本製品の電源表示ランプが点灯したことを確認して、付属の USB ケーブルで本製品の USB シリーズ B コネクタと、パソコン本体の USB ポートを接続してください。



本製品側
断面が正方形に近いコネクタ



パソコン本体側
断面が平たいコネクタ



重要なお注意

- ・本製品を USB 2.0 ポートへ接続する際は、ケーブルは必ず本製品付属のものか、USB 2.0 対応ケーブルを使用してください。USB 1.1 用ケーブルで接続して使用すると、データの書き込みエラーなどの障害が発生します。
 - ・USB 1.1 ポートへ接続し使用する際は USB 2.0 ケーブル、USB 1.1 ケーブル、どちらでも構いません。
 - ・本製品を USB 2.0 で使用される場合、パソコン本体への接続は必ず USB 2.0 拡張ポートへ接続してください。標準搭載されている USB 1.1 ポートでの使用も可能ですが、その場合の最大転送速度は従来と同じ Full-Speed (12Mbps) となります。
-

3

本製品がプラグ & プレイで認識され、ドライバの組み込みが全て自動的に行われます。(ここでユーザーが操作を行う必要はありません。)

以上で本製品の接続とインストールは終了です。次に接続結果の確認をしますので次節へお進みください。

3 . 2 接続 / インストール結果の確認

接続 / インストール作業が終了したら以下の手順で結果の確認を行います。

Windows 2000 の場合

「コントロールパネル」 「システム」を起動して、「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックしてください。

「USB (Universal Serial Bus)コントローラ」をダブルクリックして開き、「USB 大容量記憶装置デバイス」が表示されることを確認します。

「ディスクドライブ」をダブルクリックして開き「FUJITSU MCx3xxxxx USB Device」が表示されることを確認します。

「記憶域ボリューム」をダブルクリックして開き「汎用ボリューム」が表示されることを確認します。



このデバイスが表示されたら、本製品の接続と認識は正常に行われています。次に MO メディアのフォーマットについて説明しますので 3 . 3 節へお進みください。



参考

ディスクドライブ名の「FUJITSU MCx3xxxxx」の中の x3xxxxx には、本製品内蔵の MO ドライブの型番が入ります。

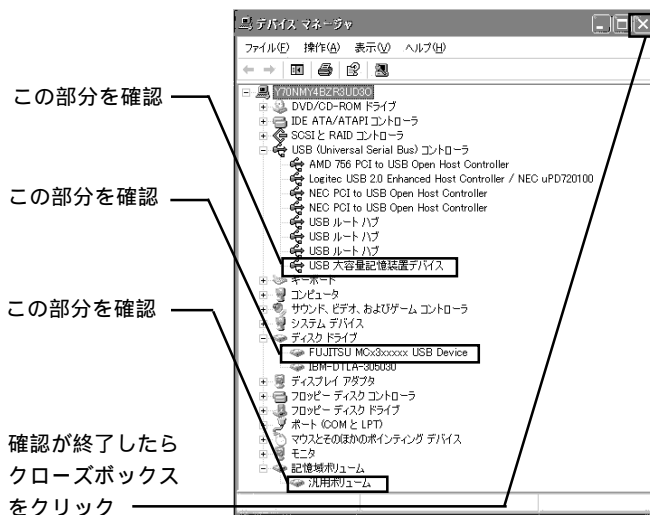
Windows XP の場合

「コントロールパネル」から「プリンタとその他のハードウェア」をクリックし、「関連項目」から「システム」を選び、システムウィンドウから「ハードウェア」タブをクリックし、表示される「デバイスマネージャ」ボタンをクリックしてください。下のように接続されている機器の一覧が表示されたら、以下のデバイスが表示されることを確認してください。

「USB (Universal Serial Bus)コントローラ」をダブルクリックして開き、「USB 大容量記憶装置デバイス」が表示されることを確認します。

「ディスクドライブ」をダブルクリックして開き「FUJITSU MCx3xxxxx USB Device」が表示されることを確認します。

「記憶域ボリューム」をダブルクリックして開き「汎用ボリューム」が表示されることを確認します。



このデバイスが表示されたら、本製品の接続と認識は正常に行われています。次に MO メディアのフォーマットについて説明しますので 3 . 3 節へお進みください。

参考



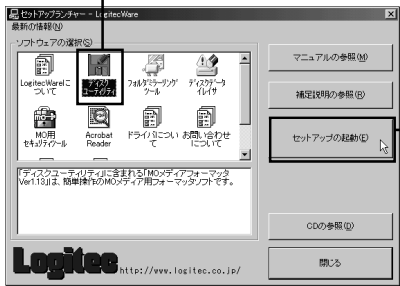
ディスクドライブ名の「FUJITSU MCx3xxxxx」の中の x3xxxxx には、本製品内蔵の MO ドライブの型番が入ります。

3.3 フォーマットについて

Windows XP、2000の場合、MOメディアのフォーマットは付属のユーティリティ「MOメディアフォーマッタ」で行います。

本製品付属の「LogitecWare」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットすると自動起動する「セットアップランチャー」から、「ディスクユーティリティ」をインストールしてください。（下図参照）

1. 「ディスクユーティリティ」のアイコンを1回クリックして、選択状態にします。



2. 「セットアップの起動」をクリックします。

インストールが終了したら、ディスクフォーマッタはタスクバー上の「スタート」ボタンをクリックして、「プログラム」「Logitec」とポイントし、「MOメディアフォーマッタ」をクリックすると起動できます。

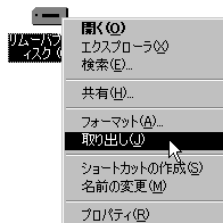


MOメディアフォーマッタの使用方法（MOメディアのフォーマット手順）については、「Logitec Ware」CD-ROMに収録されたオンラインマニュアルをご参照ください。

3.4 メディアの取り出しについて

Windows XP、2000 上で MO メディアを取り出したい場合は、「マイコンピュータ」に登録された本製品のアイコン(リムーバブルディスク)を右クリックして、表示されるメニューから「取り出し」を選択してください。

この操作を行うと、MO メディアが 1cm ほど排出されますので、静かに引き出してください。



3



ご注意

- ・本製品前面のイジェクトボタンはWindows が起動していないときに使用します。Windows 稼動中は使用しないでください。
 - ・Windows XP、2000 で MO メディアを取り出すには、管理者権限を持つグループ(例えば Administrators グループ)のメンバーとしてログインする必要があります。
-

3.5 本製品を取り外す場合は

本製品はインターフェースとしてUSBを採用しているため、ホットプラグオフ（パソコン本体の電源がONの状態での取り外し）が可能です。しかし、これは「いつでも取り外して良い」という意味ではありません。本製品を取り外す場合は、必ず以下の手順に従ってください。

本製品にMOメディアがセットされている場合は、これを取り出してください。

本製品を接続した状態では、タスクバーのシステムトレイに以下のようなアイコンが表示されます。このアイコンをクリックして、表示されるメニューから、

Windows XPでは「USB大容量記憶装置デバイス - ドライブ (E:) を安全に取り外します」をクリックしてください。

この項目をクリック



このアイコンをクリック

Windows 2000では「USB大容量記憶装置デバイス - ドライブ (E:) を停止します」をクリックしてください。

この項目をクリック



このアイコンをクリック

Point

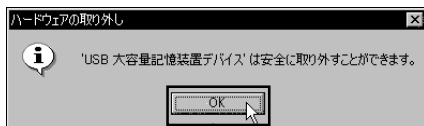
ポイント

ここで「E:」は本製品のドライブ名ですので環境によって異なります。

3.5 本製品を取り外す場合は

Windows XP では、「USB 大容量記憶装置デバイス」は安全に取り外すことができます。」というメッセージがでましたら取り外し可能となります。

Windows 2000 では、「USB 大容量記憶装置デバイス」は安全に取り外すことができます。」と表示されたら、OK ボタンをクリックしてください。



OK ボタンをクリック

USB ケーブルを外し、本製品の電源を OFF にして、AC アダプタを外してください。

第4章

Macintosh®の場合

4.1 接続とインストール

Point

本節では本製品のドライバをインストールして、本製品を接続するまでの手順を説明します。

ポイント

Mac OS X 10.0.4以降をご使用の場合、本製品を使用するためのドライバが標準で添付されているので、ドライバのインストール作業は必要ありません。「4.1.2 項 本製品の接続」へお進みください。

4.1.1 ドライバのインストール

(Mac OS 9.2.2 以前)

本製品を接続していない状態で、Macintoshのシステムを起動してください。

「Logitech Ware」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットしてください。

CD-ROMのウィンドウが開きますので、「Drivers」と書かれたフォルダをダブルクリックして開いてください。



このフォルダを
ダブルクリック

4.1 接続とインストール

下のようにドライバフォルダの一覧が表示されます。一覧の中から「LMO-xxSU2」と書かれているフォルダをダブルクリックしてください。

「LMO-xxSU2」フォルダ
をダブルクリック



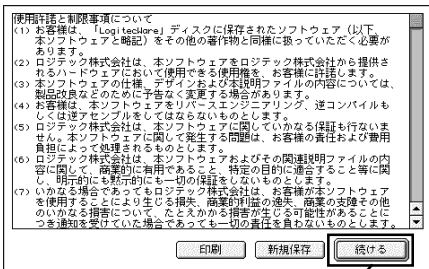
右のような画面が表示されるので、「ディスクドライバインストーラ」と書かれたアイコンをダブルクリックしてください。

この部分をダブルクリック

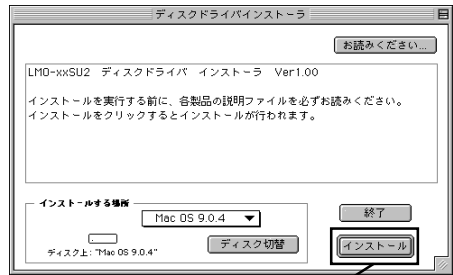


インストーラが起動して、仕様許諾等が表示されます。

内容を確認して同意
する場合は「続ける」
をクリック



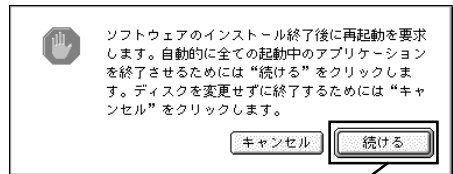
ドライバをインストールするフォルダを選択するウィンドウが表示されます。



特に支障がない場合は、そのまま「インストール」をクリック

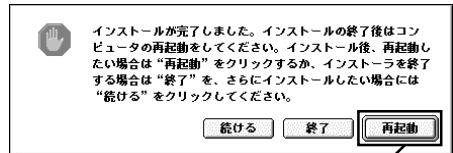
インストールの最後にシステムが再起動されるため、確認メッセージが表示されます。

他のプログラムなどが起動していないことを確認したら、「続ける」をクリック



必要なファイルが転送されます。終了すると右のウィンドウが表示されます。

「再起動」をクリック

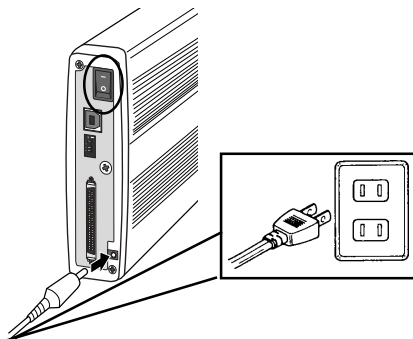


システムが再起動されます。再起動が完了したら、インストール作業は終了です。CD-ROMをドライブから取り出しておいてください。次に本製品の接続を行います。

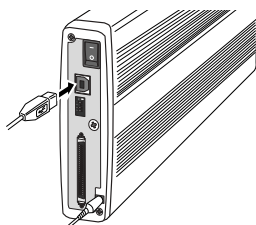
4.1.2 本製品の接続

パソコン本体の電源を ON にしてシステムを起動させてください。

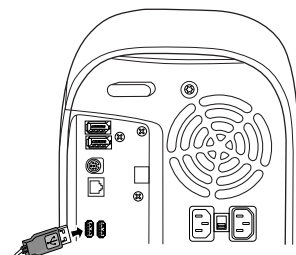
本製品背面の電源コネクタに付属の AC アダプタのプラグを接続します。AC アダプタは AC100V のコンセントに接続してください。AC アダプタの接続ができれば、本製品の電源スイッチを ON にします。



付属の USB ケーブルで本製品の USB シリーズ B コネクタと、パソコン本体の USB ポートを接続してください。



本製品側
断面が正方形に近いコネクタ



パソコン本体側
断面が平たいコネクタ

以上で接続とインストールは終了です。これで本製品を使用できる状態になりました。本製品にフォーマットされた MO メディアをセットすると、デスクトップ上にアイコンが表示されます。このアイコンをダブルクリックするとメディアにアクセスすることができます。

(MO メディアのフォーマットについては、4.2 節をご参照ください。)



参考

Mac OS X では本製品を接続すると自動的に認識され使用できる状態になります。

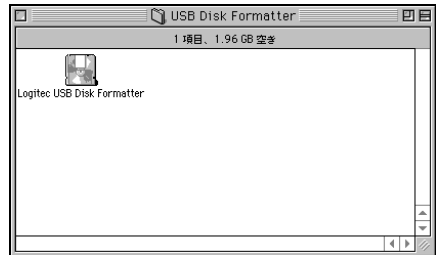
4.2 MOメディアのフォーマット手順



ご注意

Mac OS X 10.0.4 以降の OS では、ここで説明するフォーマッタソフト「Logitech USB Disk Formatter」は動作しません。OS 標準の「Disk Utility」をご使用ください。

本製品を接続した状態で、ドライバのインストール時に作成された「USB Disk Formatter」フォルダを開き、「Logitech USB Disk Formatter」アイコンをダブルクリックしてください。



フォーマッタが起動して、右のウィンドウが開きます。ここで本製品にフォーマットしたいMOメディアをセットしてください。



セットされたMOメディアに関する情報が表示されます。

フォーマットされていないMOメディアをセットした場合は、「フォーマット」の欄に「不明」と表示されます。



内容を確認したら、「ディスクの初期化」ボタンをクリックしてください。



参考

- ・「マウント」ボタンは、何かの原因でマウントされなかったMOメディアを強制的にマウントするものですが、フォーマット時には使用しません。
- ・「取り出し」ボタンは、本製品にセットされたMOメディアを取り出すためのものです。間違ったMOメディアをセットした場合などに使用してください。

右のウィンドウが表示されます。必要に応じて設定等を行ってください。

MOメディアに名前をつけたい場合は、ここに入力します。

フォーマット形式を選択したい場合はこのプルダウンメニューを開きます。(下の「ポイント」参照)



設定が終了したら、「初期化」ボタンをクリックしてください。



ポイント

「フォーマット」形式には、「Mac OS 標準」と「Mac OS 拡張」があります。データ交換などを目的とする場合は「Mac OS 標準」を、それ以外の場合は「Mac OS 拡張」をお勧めします。

Mac OS 標準

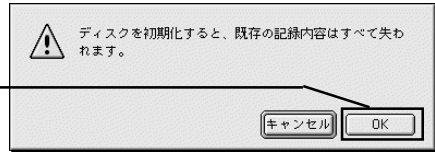
従来のMacintoshシリーズでサポートされていた形式です。汎用性はありますが、1.3GBなどの大容量のMOメディアで選択すると、保管効率が悪くなります。

Mac OS 拡張

Mac OS 8.1からサポートされた形式です。大容量のMOメディアを効率よく使用することができます。ただし、この形式でフォーマットすると、Mac OS 8.0以前のシステムではアクセスできなくなります。

確認のメッセージが表示されます。

フォーマットしてもいいことを確認したら、OKボタンをクリックしてください。



フォーマットが実行されます。通常の場合、フォーマットは数秒で終了し、右のウィンドウに戻ります。

フォーマット形式が選択したものになっていることを確認してください。

確認が終了したら、「取り出し」ボタンをクリックして、MOメディアを取り出してください。



以上でMOメディアのフォーマットは終了です。メニューバーの「ファイル」メニューから「終了」を選択して、フォーマッタを終了してください。



参考

一度上記の手順でフォーマットを行ったMOメディアを再フォーマットする場合は、「特別」メニューの「ディスクの初期化」を使用することも可能です。

4 . 3 補足事項

メディアの取り出しについて

Mac OS 上でMOメディアを取り出したい場合は、デスクトップ上にマウントされたMOメディアのアイコンをゴミ箱のアイコンに重ねてください。

この操作を行うと、MOメディアが1cmほど排出されますので、静かに引き出してください。



ご注意

本製品前面のイジェクトボタンはMac OS が起動していないときに使用します。Mac OS 移動中は使用しないでください。

本製品を取り外す場合は

本製品はインターフェースとしてUSBを採用しているため、ホットプラグオフ（パソコン本体の電源がONの状態での取り外し）が可能です。しかし、これは「いつでも取り外して良い」という意味ではありません。取り外し時には以下のような点にご注意ください。

本製品にMOメディアがセットされているときは、取り外しは行わないでください。本製品を取り外す前にMOメディアを取り出してください。

パソコン本体がスリープ状態になっているときは、取り外しを行わないでください。

本製品を取り外す場合は、USBケーブルのパソコン本体側のコネクタを先に外してください。

第5章 補足事項

5.1 トラブルシューティング

本製品を接続したが認識されない。

ドライバは正しい手順でインストールされていますか？
ケーブルの接続に接触不良などがないかどうか確認してください。
本製品を USB ハブ経由で接続している場合は、パソコンの USB
ポートに直接接続して試してみてください。

MOメディアのアクセス時にエラーが発生する。

MOメディアは汚れていませんか？ ディスク・クリーニングを
行ってください。
MOメディアの不良も考えられます。別のディスクで試してくだ
さい。これで問題がなければ、エラーが発生するMOメディアのデー
タをバックアップして、再フォーマットを行ってください。

特定のMOメディアをアクセスできない。

そのMOメディアはフォーマットされていますか？ 一般にMOメ
ディアは物理フォーマット済みで発売されていますが、物理フォー
マットのみではアクセスはできません。本書記載の方法でフォー
マット（論理フォーマット）を行ってください。
MOメディアではスーパーフロッピーフォーマットの形式が一般的
ですが、ハードディスク形式やアップルコンピュータ社の
Macintosh シリーズ用にフォーマットされたディスクもあります。
異なるシステムとデータ交換を行う場合には、スーパーフロッピー
フォーマットのMOメディアを使用してください。（Macintosh シ
リーズでスーパーフロッピーフォーマットのMOメディアを使用す
るには、MacOS 標準のユーティリティ「PC Exchange」が必要です。）
そのMOメディアが本製品で使用できる容量のものかどうかを確認
してください。使用可能なMOメディアについては、「1.1 製
品の特徴」の「機種と使用可能なMOメディア」をご参照くだ
さい。

MOメディアに書き込みができない。

MOメディアのライトプロテクト・ノッチがプロテクト側に設定されていませんか？

特定のソフトウェア（ディスク修復ツールなど）で MOメディアを使用できない。

一部のユーティリティソフトウェアでは、動作対象がハードディスクのみになっている場合があります。ソフトウェアメーカーに問い合わせ、そのソフトウェアがMOメディアを動作対象としているかどうかを確認してください。

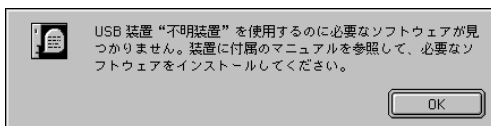
一部のソフトウェアでは、動作中のディスク交換の問題などからインストール対象をハードディスクに限定している場合があります。ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

スリープ状態から復帰できない。

パソコンのスリープ（サスペンド）状態の処理方法により、このような現象が発生する場合があります。ご使用のパソコンによっては、パソコン本体メーカから供給されるアップデートプログラム等によりこの現象を回避できる場合もあります。

アップデートプログラム等が用意されていない場合は、スリープ（サスペンド）機能をOFFにしてご使用ください。

Macintoshシリーズで本製品を接続すると、 以下のようなエラーメッセージが表示される。



本製品のドライバがインストールされていません。第4章にしたがって、ドライバのインストールを行ってから、本製品を接続してください。

データの転送速度が遅い。

USB 2.0 のポートに正しく接続されていますか。

USB 1.1 のポートに接続されている場合、データの転送速度は Full-Speed (12Mbps) までとなります。High-Speed (480Mbps) でデータ転送を行うには USB 2.0 ポートにつなぎかえてください。

パソコン本体に USB 2.0 ポートがない場合は別売りの USB 2.0 インターフェイスボード (PCI 用インターフェイスボード、もしくは CardBus 対応 USB 2.0 インターフェイスカード) を接続してドライバのインストールを行ってから、接続しなおしてみてください。

Macintosh 環境で本製品のドライバをアンインストールしたい。

システムフォルダの機能拡張フォルダにコピーされた以下のファイルを削除してください。

Logitech USB-29 Driver

Logitech USB-29 Shim

その他：弊社ホームページについて

弊社ではインターネット上にホームページを開設しています。ホームページにはソフトウェアのダウンロードコーナーや、各種製品に関する Q&A コーナーがあります。また、「サポート情報」では「お問い合わせ用紙」や「修理依頼書」などが、PDF 形式でダウンロード可能になっていますのでご活用ください。

ホームページアドレス：<http://www.logitech.co.jp/>

